



■「産農人」とは農作物をつくるだけでなく、市場ニーズを理解し流通させることのできるマーケットセンスを持った新しい農業人を表す造語。横須賀商工会議所と地域の農家・加工業者・飲食店・メーカーが一丸となって、将来の農業を担う有用な人材の育成に取り組んでいます

### 「産農人」3期生始動

# 新しい農業のカタチ 実践で学ぶ

新時代の農業人を育成する「産農人」プロジェクトは7月、新メンバーを迎えて3期目の活動がスタート。今期は新商品開発をメインテーマに据え、学校の枠を飛び越えた実践型研修を進化(深化)させる



**新加入**  
大沼 侑汰さん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(2年)

宮城県で米や野菜、花き栽培を行う祖父の跡を継いで農業に従事すると決めている。実践的な農業経営を学ぼうと「産農人」の活動に参加した。一方で農業の将来性については不安もある。加工品の開発など、新しい発想を持ってチャレンジを考えている。

### 農業経営の先端に触れる

宮城県で米や野菜、花き栽培を行う祖父の跡を継いで農業に従事すると決めている。実践的な農業経営を学ぼうと「産農人」の活動に参加した。一方で農業の将来性については不安もある。加工品の開発など、新しい発想を持ってチャレンジを考えている。

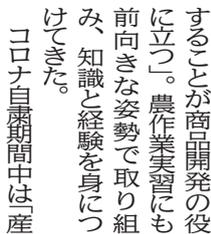


長島 未歩さん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(3年)

実家がイチゴ農家。観音園も営むが、昨秋の台風被害に先の新型コロナの影響で経営は大打撃。農業の厳しさ、リスクとの向き合い方について、考えずにはいられない経験をしたという。リスク分散の一つの答えは「強い農業」を確立するつもりだ。

### 加工品開発で「強い農業」

実家がイチゴ農家。観音園も営むが、昨秋の台風被害に先の新型コロナの影響で経営は大打撃。農業の厳しさ、リスクとの向き合い方について、考えずにはいられない経験をしたという。リスク分散の一つの答えは「強い農業」を確立するつもりだ。



佐藤 藍音さん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(3年)

食品加工にひとかたならぬ興味を持っている。「素材となる野菜や果物の特性、生育環境を理解することが商品開発の役に立つ」。農作業実習にも前向きな姿勢で取り組み、知識と経験を身につけてきた。

### 溜めたアイデア実践投入



佐藤 藍音さん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(3年)

「コロナ自粛期間中は産農人」の活動もストップを余儀なくされたが、この間に自宅でスイーツのニューの開発に動んだ。今期は自分たちが育てた野菜を用いて、「加工販売PR」を一貫して手掛ける。溜めたアイデアを実践投入するつもりだ。



シノ コウチニョケンジさん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(3年)

### 未来につながる学びがある

自然に触れていたい。そんな単純な動機で参加した「産農人」の活動だったが、1年が経過して、漠然としていた将来像が明確なものとなった。「沖縄で農業をやる」。石垣島の牧場でアグリー豚の飼育に携わるか、最北エリアでマンゴーの栽培を思い出させてくれる。

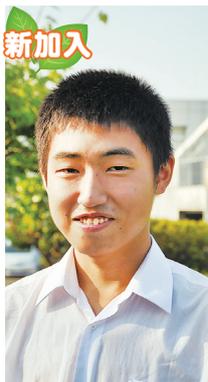


秋元 琉椰さん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(3年)

農業を仕事にしたいと考えている非農家出身。小学生の頃から土いじりが大好きで、家庭菜園の真似事をしてきた。プロの農業経営者から直に学べる「産農人」の機会は「我が意を得たり」の心境。就農に向けて知識と経験を積み重ねていくつもりだ。

### 「非農家の夢」実現する場

農業を仕事にしたいと考えている非農家出身。小学生の頃から土いじりが大好きで、家庭菜園の真似事をしてきた。プロの農業経営者から直に学べる「産農人」の機会は「我が意を得たり」の心境。就農に向けて知識と経験を積み重ねていくつもりだ。



**新加入**  
飯島 あゆみさん  
県立三浦初声高校  
都市農業科(2年)

土とたわむれ、そよ風に吹かれながら作物の成長を追いかける圃場(畑)の実習が一番好きだ。「産農人」の活動を通じて何かを掴みたい。

### 「農業」を考えるきっかけ

生産技術だけではなく、市場分析や加工食品の開発など幅広い視野で農業を学べると先輩から聞き、「産農人」への参加を決めた。